

○報告事項1 「地域連携薬局等の認定状況について」

- ・ 地域の偏在もみられる状況であり、どう対応するのか。
- ・ 認定薬局と非認定薬局では、地域医療に係る業務に乖離があると感じる。薬局には積極的に認定を取得してもらいたい。
  - 偏在の解消及び認定取得の推進について、行政と県薬剤師会とが連携し、研修会等で認定要件や認定の意義等を説明するなどの対応をしております。  
(茨城県薬剤師会) 薬剤師会としても会員に周知しているところです。また、地域連携薬局数は増加しており、認定取得の意識も高くなりつつあります。
- ・ 今年4月から在宅医療圏が設定されるが、それに対応・連絡するのは地域連携薬局なのか、地域の薬剤師会なのか。
- ・ 地域の薬剤師と意見交換の窓口は薬剤師会でよいか。
  - (茨城県薬剤師会) 在宅医療圏についての対応は、現時点で具体的な話はできておりませんが、意見交換については地域の薬剤師会に連絡をお願いいたします。
- ・ 認定薬局の件数の他に、地域住民が薬局利用に何を求めているのかの調査を検討してはどうか。

○報告事項2 「薬剤師確保対策について」

- ・ 「病院」薬剤師の確保を前面に打ち出してしっかりと確保していただきたい。
- ・ 薬剤師は女性の比率が高く、家庭との両立できるような環境を病院も整備する必要があると考える。
- ・ 奨学金を利用する学生の立場からは、病院で働く意思があるものの、金銭的な理由で断念することもあるため、補助制度等を検討いただきたい。

○報告事項3 「市販薬のオーバードーズ（過剰摂取）対策等について」

- ・ 大麻入り食品について、海外土産等の食品から意図せず購入・摂取してしまうこともあるのではないか。
  - お土産等海外製食品にむやみやたらに入っているものではないが、大麻の葉のようなマークが入っているもの等は敬遠するなどする注意が必要です。
- ・ OD（オーバードーズ）について、管理下にある医薬品（医療用医薬品）と管理下でない医薬品（一般用医薬品）ではどちらが多いのか。また、どのような場面での発生が多いのかの調査があれば対策につながると考える。
  - 具体的な調査結果はございませんが、容易に購入できる市販薬でのODの方が多いためと考えております。
- ・ ODの啓発に対して、だれを対象に、内容はどのようなものか。
  - つくばエクスプレスでの啓発は、ODの概要と相談窓口の周知に力を入れております。
- ・ ODをする若年者は「誰にも知られず、生きづらさを1人で何とかしたい」と考える方が多く、容易にSOSを出せない人が多い。まず、大人向けにODを正しく理解してもらう啓発が必要で、若年者からのSOSを出しやすくする環境作りが重要と考える。
- ・ 高齢者については眠剤や健康食品、認知機能の低下によるODもある。若者とは原因も対策も異なるが、分けて考えてはどうか。